

第1回 産業立地戦略会議 議事要旨

日 時	平成24年3月23日(金) 15時30分～17時40分	
場 所	小牧市役所南庁舎5階 大会議室	
出席者	<p>【委員】(名簿順)</p> <p>山下 史守朗 小牧市長 成瀬 哲夫 小牧商工会議所会頭 東海ゴム工業(株)代表取締役会長 鈴木 義久 東春信用金庫理事長 堀田 浩隆 三菱東京UFJ銀行小牧支社長 安部 泰二 三菱重工業(株)航空宇宙事業本部誘導・エンジン事業部副事業部長 (名古屋誘導推進システム製作所) 余語 哲爾 日本特殊陶業(株)小牧工場副工場長 木村 忠史 公益財団法人あいち産業振興機構常務理事 高橋 信之 県産業労働部産業立地通商課主査(代理出席) 舟橋 毅 小牧市市民産業部長 江口 秀和 小牧市都市建設部長</p> <p>【コーディネータ】</p> <p>佐々木 央 (株)富士通総研</p> <p>【事務局】</p> <p>松岡 和宏 市長公室室長 大野 成尚 市長公室次長 小塚 智也 市長公室 市政戦略課長 舟橋 朋昭 市長公室 市政戦略課 市政戦略係長</p>	
欠席者	細川 昌彦 中部大学 中部高等学術研究所教授	
傍聴者	25名	
配付資料	<p>資料1 市政戦略会議の組織及び運営に関する要綱 資料2 産業立地戦略会議について 資料3 委員名簿・配席表 資料4 産業立地戦略会議の進め方について 資料5 産業立地戦略会議 検討資料 当日配布資料① 製造業者における業種別市民税(法人)法人税割【資料5関連】 当日配布資料② 産業分類別事業所及び従業者数【資料5関連】 資料6 「10年後の市内産業の目指すべき姿」たたき台 参考資料1 小牧市審議会等の会議の公開に関する指針 参考資料2 小牧市情報公開条例(抜粋)</p>	

主な内容

1 開会

(1) あいさつ(市長)

- ・ 産業立地戦略会議の委員就任をご快諾いただき、感謝申し上げます。
- ・ 本日は、産業立地戦略会議ということで、企業、行政を代表する方々にお集まりいただき、議題である「本市産業を取り巻く環境の変化について」と「10年後の本市産業の目指すべき姿」について皆様と忌憚のない議論を交わせればと考えている。

(2) 委員紹介

- ・ 事務局より、資料3にて委員を紹介。
- ・ 細川委員が急遽ご欠席、愛知県産業労働部産業立地通商課長の小野木様の代理として同課主査の高橋様をご出席について説明。

(3) 会議の運営等について

- ・ 事務局より、資料1・2を用いて説明。

2 議題

(1) 会議の公開について

- ・ 事務局より、参考資料1を用いて会議の公開・非公開の規定等について説明。
- ・ 委員により会議は公開と決定。
- ・ ケーブルテレビや新聞記者による写真撮影と会議要旨の公開について了承。

【会議の公開の決定を受け、傍聴者入室】

- ・ 市長より会議の目的や趣旨についてご挨拶。挨拶の主な内容は以下の通り。
- ・ 中長期的な市政を見据えて市政戦略本部において自らが本部長となり政策課題を検討しているが、特に重要な政策課題についてはテーマ毎に戦略会議を設け、外部有識者、外部コーディネータを交えて議論している。本会議は、産業立地戦略会議として本市の産業振興の方向性を議論していくものである。
- ・ 本市は昭和30年代に企業立地を進め、地の利を活かしながら産業都市として発展してきた。一方で世界の競争激化があり、地域的にも道路ネットワークの整備が進み、小牧市の持つ地の利が以前と比べると相対的に低下しているという指摘もある。このような中で小牧市として一層の産業集積を図り将来にわたって力強い産業都市をどのように形成していくか、財政基盤を持続的に安定させながら市民生活の向上に努めていきたいという思いである。
- ・ 本市への新たな企業立地、本市に立地する事業者の皆様が継続して本市で事業活動を営んでいただくための様々な企業支援のあり方、特に設備投資の更新をする際の支援のあり方、さらには新たな事業の創出、操業支援なども考えていければと思っている。
- ・ この会議の中で様々な教えをいただき、お力添えをいただけるようお願い申し上げます。

(2) 本市産業を取り巻く環境の変化について

- ・ コーディネータより、会議の進め方について資料4を用いて説明。
- ・ 別途、産業振興基本計画を策定しており、本会議で検討された内容等は、この基本計画に反映させていく。
- ・ コーディネータより、本市産業の状況等について、資料5を用いて説明。
- ・ 各委員から、自己紹介及び自らの立場において抱える問題や課題について発言。主な意見は以下の通り。

【会議全体】

- ・ 企業のビジョンをみると今後10年は大きく変化し、企業存続に対して危機感を持っている企業が多い。こうした危機感は、企業規模に関わらず大企業及び中小企業が持っている。これ

ら企業のビジョンには、新たな産業形態がどのようになっていくのかということが中心であり、地域経済という観点は入ってこない。このため、本会議は、地域の優位性をアピールできる場であり、大変価値がある。

- ・ 企業は市域という概念はなく、グローバルな視点で事業展開をしている。このため、そうした視点での議論、支援等の検討が必要である。
- ・ 検討の視点として、面的な広がり（中部圏域の中での小牧市・東アジアの中での中部圏域）や立地企業がどのような地域と取引があるのか、どんな機関と協力しているのかというネットワークや成長産業などを意識する必要がある。立地環境としては、愛知県内にとどまらず、岐阜県南部、三重県北部も合わせて考える必要がある。
- ・ 小牧空港は最大の資産であり、産業立地にどう活かすかを考えることが重要である。
- ・ 産業立地に取り組む人材の確保も合わせて考えていく必要がある。
- ・ 高速道路や空港などのインフラを積極的にPRしていきながら、働く市民のために活気あふれるまちとなるよう活発な議論をしていく必要がある。

【企業のニーズ】

- ・ 市内中小企業が必要とする情報として、複数ある工場を集約したいなどといった理由から工業用地を探している企業が多い。しかし、適した用地がない場合が多いため、行政からもこうした情報提供が必要であると感じている。
- ・ 中小企業においては、事業承継の問題や海外進出に向けた情報が欲しいというニーズが多くなっている。
- ・ 震災以降、BCP（事業継続計画）に対するニーズが高く、災害発生時などに物流の結節点である小牧市の優位性は高い。こうした動向も踏まえることが必要である。

【企業立地に向けた検討要素】

- ・ 企業立地を検討する際に、賃金や顧客との距離、補助金等の支援の他に行政の熱心さも非常に重要な要素である。他地域においても道路ネットワークが整備される一方で、小牧市の交通インフラの優位性がなくなりつつある。このため、より積極的に行政としてPRしていくことも重要である。

（3） 10年後の本市産業の目指すべき姿について

- ・ コーディネータより資料6を説明後、意見交換。主な意見は以下の通り。
- ・ 今後の産業誘致を考えると、先端産業もあるだろうが、内需型産業も重要な視点であると考えられる。グローバル化といっても全ての機能が出て行くわけではなく、いかに内需を振興させていくかということも必要であり、これに対する支援策も重要である。

（4） その他

- ・ 次回の会議は5月頃を目処に開催予定。
- ・ 本日の会議の議事要旨は、作成次第、委員の皆さんに送付、ご確認をいただくので、ご協力をお願いしたい。

3 閉会